



財団法人海洋化学研究所 75 年の歩み

代表理事 宗 林 由 樹*

本財団は 1946 年 4 月 4 日に設立され、昨年 75 周年を迎えた。私が本財団と関わるようになったのは、1986 年博士課程 1 回生のころである。記録のため、私的な経験を交えて、本財団の歴史をここに記す。

本財団と深い関わりを持つのは、京都大学理学部化学教室分析化学研究室と化学研究所海洋化学研究室である（表 1）。石橋雅義先生は 1936 年分析化学研究室教授に就任され、「分析化学と海洋化学を車の両輪とする。分析方法を実験で徹底的に吟味し、それを海洋に適用する。」という研究を開始された（藤永太一郎, 2005）。戦時下 1942 年に化学研究所海洋化学研究室をつくれ、戦後いち早く文部省所管財団法人として本財団を設

立された。このときの理事長は石橋雅義（京都帝国大学教授）、理事は近藤金助（京都帝国大学教授）、堀場信吉（京都帝国大学教授）、林莊太郎（兼松株式会社社長）の 3 氏であった。兼松株式会社が本財団の設立にあたり資金を援助された。私は石橋先生に直接お目にかかったことはない。しかし、学部生の学生実験は石橋先生著「定量分析実験法」が教科書であった。特に重量分析によるプラスの成分元素定量は初学者にはたいへん難しく、印象に残っている。

本財団を中興されたのは藤永太一郎先生である（堀智孝, 2014）。当時の役員を表 2a に示す。1986 年機関誌「海洋化学研究」を発刊し、IUPAC の協賛を得て国際シンポジウム “International

表 1. 京都大学理学部・化学研究所の分析化学・海洋化学研究室の年表

理学部化学教室			化学研究所		
研究室名	教授	年月日	研究室名	教授	年月日
分析化学		1922.5-1994.3.31	海洋化学		1942.7.3-1964.3.26
	松井元興	1922.5-1933		石橋雅義(兼任)	1942.7.3-1959.12.7
	小林松助	1935		重松恒信	1957.4.1-1980.4.1
	石橋雅義	1936.3-1959			
	藤永太一郎	1960.12.16-1982.4.1	放射化学研究部門		1964.3.27-1992.4.9
	波多野博行	1983-1988.3.31		松井正和	1982.7.16-1999.3.31
	寺尾武彦	1989-1994.3.31	界面物性研究部門Ⅲ		1992.4.10-2004.3.31
分子構造化学		1994.4.1-		宗林由樹	2000.5.1-
			水圏環境解析化学		2004.4.1-

*京都大学化学研究所教授

75 周年記念秋季講演会（令和 3 年 11 月 13 日）講演

Symposium on New Sensors and Methods for Environmental Characterization”を開催された。実行委員長は松井正和先生であった。私は北太平洋におけるモリブデンとタングステンの鉛直分布をポスター発表した。これは私にとって初めての国際学会での発表だった。招待講演者 Edward David Goldberg 先生は、当時の代表的な海洋化学者のひとりであった。彼が私の研究を評価してくれたことは、私が研究者として生きていく上でたいへん自信になった。1987年第1回海洋化学学術賞が山本俊夫先生に授与され、1990年7月京都化学者クラブ第1回例会が開催された。このように本財団のおもな活動はこの頃に開始され、現在まで継続されている。

本財団中興の財政基盤確立にご尽力されたのは木田英氏である（伊藤光昌，2013）。木田氏は藤永太郎先生の10学年後輩で、三和銀行専務取締役のほか、多くの会社の役員を務められた。本財団では理事、理事長、評議員を歴任された。さらに、伊藤光昌氏を本財団へ勧誘して下さった。

2005年「海と湖の化学—微量元素で探る」が刊行された。本書は70年に及ぶ京都大学学派の研究成果をまとめたものである。もともと藤永先生が1978年石橋先生ご逝去に際して原企画をお考えになったもので、藤永先生の執念により2005年によく結実した。本書は他に類のない海洋化学・陸水化学・分析化学の教科書として好評を得たが、残念ながら増刷のめどはたっていない。2006年60周年記念秋季講演会が京都ホテルオークラで開催された（図1）。当時の京都大学総長尾池和夫先生が記念講演を行って下さった。

その後私は本財団の運営に本格的に関わるようになった。2012年京都府所管一般財団法人への移行においては、公認会計士大島徳博氏をご尽力下さった。この頃、本財団は毎年およそ100万円の赤字をだしており、およそ10年で資金が尽きそうであった。当時本財団評議員であった伊藤光昌氏が、多額の寄附をご提案下さった。伊藤氏はハーモニック・ドライブ・システムズ代表取締役会長である。1981年ハインリッヒ・ホフマ

表2. 役員一覧

(a) 1986年4月4日		
役職	名前	現職
理事長	藤永太郎	奈良教育大学長
理事	国司秀明	京都大学教授
	左右田健次	京都大学教授
	桑本融	京都大学助教授
監事	宮崎又治	(財)京大70周年記念後援会
顧問	神原豊尚	静岡大学名誉教授
主事	紀本岳志	紀本電子工業(株)専務取締役
賛助員	兼松江商(株)	
	名村造船(株)	
	紀本電子工業(株)	
	(株)ハーモニックドライブシステムズ	

(b) 2016年9月1日		
役職	名前	現職
評議員	左右田健次	
評議員	伊藤光昌	(株)ハーモニックドライブシステムズ 代表取締役会長
評議員(所長)	中西正己	
理事	大島徳博	公認会計士
理事	木場靖夫	
理事(副所長)	堀智孝	
代表理事(副所長)	宗林由樹	京都大学化学研究所教授
理事	中口譲	近畿大学理工学部教授
監事	向井浩	京都教育大学理学科教授
監事	高野祥太郎	京都大学化学研究所助教



図1. 2006年11月5日60周年記念秋季講演会懇親会にて、前列左から二人目が藤永太一郎先生、三人目が木田英氏。

ン協会理事就任，2008年ドイツ連邦共和国功労勲章受賞，2016年公益財団法人ハーモニック伊藤財団理事長就任，2020年編著書「アルト歌手ゲルトゥルーデ・ピッツィンガーの人と音楽」発行など，文化・芸術への造詣が深い。もともと海洋化学とは接点がなかったが，本財団理事長，評議員を歴任されるうちに，本財団の活動に無用の用を見いだしてくださった。本財団はご寄附を受けるのにふさわしい体制を築くため，2016年京都府所管公益財団法人へ移行，さらに2017年内閣府所管公益財団法人へ移行した。当時の役員を表2bに示す。この頃から司法書士大島光一氏が本財団の運営を御指導くださるようになり，コンプライアンスが強化された。2016年伊藤光昌氏

からのご寄附を受け入れた。これによって，2017年伊藤光昌氏記念学術助成を開始し，第1回海洋化学奨励賞を近藤能子氏，坂口綾氏，高野祥太郎氏に授与することができた。また，「海洋化学研究」のA4版カラー化も実現した。2021年11月13日75周年記念秋季講演会を京都ホテルオークラで開催した（図2）。

海洋化学は生命の母である海洋を化学で解きあかすものである。本財団は，日本の海洋化学の発展に寄与してきた (<https://www.oceanchemistry.org>)。これにはここで書き切れなかった多くの方々のご協力が欠かせなかった。この場を借りて，皆様に御礼を申し上げます。本財団はこれからも知を探求し，友と語り合う楽しみの場所と機会を提供していきます。今後も本財団をどうぞよろしくお願いいたします。

参考文献

- 伊藤光昌（2013）木田英元海洋化学研究所理事長の思い出。海洋化学研究 26, 53-55.
- 藤永太一郎監修，宗林由樹，一色健司編（2005）海と湖の化学—微量元素で探る。京都大学学術出版会，京都。
- 堀智孝（2014）藤永太一郎先生を悼んで。海洋化学研究 27, 81-82.



図2. 2021年11月13日75周年記念秋季講演会集合写真。